

1. 評価報告概要表

作成日平成20年 6月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4073600282
法人名	有限会社 ステップ
事業所名	いびんく紀水庵
所在地 (電話番号)	福岡県古賀市小山田497-1 (電話)092-943-1616

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年6月5日	評価確定日	平成20年6月20日

情報提供票より】(20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17 人 常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算 16.2人

(2) 建物概要

建物形態	併設() 単独 () (新築) 改築 ()
建物構造	木造 造り 1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円) 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200円		

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.3 歳	最低	79 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古賀中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置しているが、周りの建物とも調和しており、違和感を全く感じないグループホームである。地域の中で支えられながら生活ができるホームにしたいという思いを持って、それを実践していくことが出来るように、地域の行事には積極的に参加したり、逆にホームの行事に地域の人たちに参加してもらったりしながら、地域との交流を図っている。また、利用者が「安らぎ」「安心」「安全」を感じながら、職員と一緒に楽しく過ごしてもらえるようなホームを目指して、常にサービスの質の向上を図っている。実際に入居している利用者の表情も皆穏やかで、時にはホーム内に笑い声が響いており、施設長や職員の思いが伝わっていることを肌で感じる事が出来た。

重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善点については、研修を行ったり、委員会を設置する等しながら、改善に向けての取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の自己評価をたたき台にして、職員間で話し合いを行いながら作成したものを元にして、施設長がまとめた。昨年との違いを感じながら、改善に向けて積極的に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者の家族をはじめ市の職員や区長、病院の師長等に参加してもらって、運営推進会議を開催している。会議では、外部評価の結果を報告したり、意見交換を行ったりしており、それらの意見を実際のサービスの向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時や運営推進委員会時に、家族の意見や不満を出してもらおうとしており、そこで出た意見については、後日職員と話しをしながら改善に向けた取り組みを行っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物等で近隣の人と顔をあわせることも多く、グループホームについても理解してもらっている。地域の夏祭りにも参加したり、子供会からホームに来てもらったりする機会もあり、お互いの交流ができる場面も設けられている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくあげている	利用者が安らぎや安心、安全を心に持ちながら、また地域の中で支えられながら生活できることを理念に掲げ、入居者本位のケアを行っていくことを目標としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングの時間等を利用して、施設長から職員に対して理念について話しをしている。また職員同士でも理念について話しをしながら、利用者に対する関わり方、また理念の実践について日々取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りに参加したり、子ども会からホームの方に来てもらったりしながら、お互いの交流の場を持っている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の自己評価をたたき台にして、職員間で話し合い、作成したものを元にして、施設長がまとめた。昨年の外部評価における改善点については、研修を行ったり委員会を設置する等しながら、改善に向けた取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族をはじめ、市の職員や区長、病院の師長等に参加してもらい、外部評価の結果を報告したり意見交換を行ったりしサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口には頻りに足を運んでおり、相談事を持ち掛けたり担当者とのコミュニケーションも取れている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年の評価で改善項目であったが、その後、資料を基に職員がそれぞれ勉強したり、施設長が制度についての話しをしたりしながら、制度についての知識を深めている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「紀水庵便り」を送付する時に、それぞれの担当者から利用者の状況を記載した手紙や写真等を同封して、日々の暮らしぶりを伝えている。	○	家族アンケートより、利用者の日々の状況をもっと詳しく知りたいといった意見が数件見受けられた。それぞれの家族の状況や意向に応じて報告の内容を検討していくことが必要ではないだろうか。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や運営推進委員会時に家族の意見や不満を出してもらっており、そこで出てきた意見については、後日職員と話しをしながら改善に向けて取り組んでいる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当を変更する場合には、家族には事前に報告するようにしている。利用者に対しては、伝えることによってダメージを与えることがあるので、引継ぎに1ヶ月～3ヶ月かけて、徐々に移行していくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人の考え方や人間性を重視しており、年齢や性別で採用から排除することはない。試用期間(3ヶ月～6ヶ月)の中で見極めていくようにしている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権教育については、日々の業務の中で実践に基づいた形で話しをするようにしている。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部から講師を招いて研修を行ったり、グループホーム協議会の勉強会に参加する等、外部研修にも積極的に参加している。外部研修については職員が交代で参加し、ホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に入会しており、2ヶ月に1回程度、集まりがあるので、そこで他のグループホームの職員との交流を持つことができる。また、近々市内でも協議会を立ち上げる予定があり、地域でのネットワークの構築に期待している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に面接に行ったり ホームを見学に来てもらって、不安の軽減に努めている。今後はデイサービスを利用して入居に移行していくような方法で、場の雰囲気に馴染んでもらえるようにしていきたいと考えている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に生活する、また時間を過ごすという感覚で利用者者に接している。昔の言葉を教わったり 畑仕事や調理を一緒に行ったりして、一方的に介護するということが無いよう努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の会話から、その人の思いや意向を引き出すよう心がけている。意向の把握が困難な利用者もいるが、センター方式を取り入れており 家族にもシートを記載してもらいながら、本人の意向の把握に努めている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式を活用しており それぞれの担当者と計画作成担当者が話し合いながら計画を立てたものを、職員全員で確認している。家族の意向についても面会時等に確認しており 作成後は必ず提示している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>少なくとも3ヶ月に1回は計画の見直しを行うようになっている。モニタリングは1ヶ月に1回行っており その時点で変化があった場合には、その都度計画の変更や追加等を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて通院介助を行ったり、往診に来てもらったりしながら、かかりつけ医との連携を図っている。また緊急時に備えて、協力病院の受診もしており、普段の状態を把握してもらっている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	なるべく早い段階からターミナルについての指針を家族に話しながら、またかかりつけ医とも話し合いながら対応している。介護職で出来る範囲での関わりを持ちながらの対応を心がけている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に朝礼やミーティングで話しをしており、職員の意識向上を図っているが、評価員が見学している際、トイレの戸を開けたままで介助をしている場面が見受けられた。	○	普段から十分に気をつけて対応している部分だと思うが、たまたまそのような場面に遭遇してしまった。今後は「たまたま」ということがないように対応していくことが望まれる。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく利用者本人の意思を尊重して、希望に沿って臨機応変に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけではなく、利用者にも配膳や片付け等、それぞれが負担にならないよう出来る部分を手伝ってもらいながら、一緒に食事を楽しむことができる雰囲気づくりが行われている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしており、利用者の希望や状況、状態に応じて入浴を支援するようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができることやできそうなことを見出して、それぞれが役割を持って生活できるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	なるべく利用者の希望に沿って、散歩や買い物等、外出する機会を持っている。出掛けることが困難な利用者もいるが、天気の良い時にはデッキで日光浴をしてもらえる等の対応をしながら支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切鍵をかけないようにしており、職員による見守りに対応している。鍵をかけることの弊害については、職員全員理解している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施し、避難方法や避難場所等の把握は出来ているが、夜間を想定した訓練は今のところまだ行っていない。また、地域住民の協力を得る体制も整っていない。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて(特に夜間帯)地域住民の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みを行っていくことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者のBM に応じて摂取量を調整するようにしている。また水分についても摂取量を記録し、必要量が取れているかどうかチェックしている。また時々管理栄養士に献立を見てもらい、栄養バランスのチェックもしてもらっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、タンスやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具が持ち込まれており、居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		